

論理的思考力を支える言語力の育成

長尾 順子（岐阜女子大学特別研究員）

本研究では、1980年代に岐阜大学で行われた研究実践をもとに、沖縄県内の小学校に勤務する教員らと連携し、実際の教育現場に即した学習プリントの開発・利用や言語指導を中心とした指導方法の改善を目指した。

《研究内容》

（1）授業における思考力を高める言語の学習指導

①小学校の算数教科書における論理的思考操作に関する言語の利用状況

松川等（1980）の研究成果をもとに、2014年版の算数教科書を用いた学年別の操作言語の利用状況の再調査を行った。それと並行して、「理由・条件・順序・比較・手段」を意味する文脈を抽出した。これにより、児童の思考活動を支える教師の言語指導や授業計画の工夫・改善につなげた。

②授業の言語活動の状況の把握と指導方法の検討

授業の言語活動の状況について検証するために、授業をデジタルビデオカメラで撮影・記録した。分析方法はフランダーズ、OSIA等の行動カテゴリーを本研究用に再構成し、言語活動と行動（学習活動）の関係を検証した。その検証結果をもとに、授業の工夫・改善を図り、「質の高い発問」を意識した授業づくりを計画、実施した。

③「思考力を高める言語指導の手引き」の作成

理論的知見と授業実践の記録をもとに、算数授業における思考力を高める言語指導の実践について、『言葉の力と考える力を育てる発問・発言と学習プリントの手引き』を含む複数の資料を作成した。印刷物や通信ネットワークを用いた情報提供という形で教師が学習しやすい形で作成し、校内研修や地域の講習会等で利用できるものを作成した。

（2）授業実践の補助としての教材（学習プリント）による定着化と評価

言葉の習得状況の個人差に配慮し、それを補うために単元導入前用の学習プリントを作成した。また、教師が授業で指導することが困難な言葉の指導、安定した学習の定着を図るために、「毎日の学習プリント」を作成し、関係学校に提供、学習の定着を図った。学習プリントは主に家庭学習用とし、教師が朝の会等で説明・指導する取り組みを行い、その成果を検証した。

（3）言葉の理解を促す補完デジタル教材の開発（タブレット PC で利用可能な補完教材）

言語によっては、小学校低学年から高学年まで、継続した指導の必要なものがある。これについては、重要な言葉の一覧表を作成し、協力校へ提供を行った。また、文字だけでなく映像を提示することが効果的な学習内容もある。本研究では、学習プリントにQRコードを付けることで、言語の“繰り返し学習”と“映像提示”による効果的な学習内容の習得を可能にした。

《研究成果》

（1）研究の目的・内容として

①児童の言語環境の把握

児童の言語習得の状況に配慮した指導を行うことができた。

②学習指導計画と振り返りの大切さ

発問の精選と、発言回数と内容の適否についての具体的な根拠をもった振り返りを行うことができた。

③学習プリントの効果的な活用方法の構成

児童の学習状況の把握と改善をすることができた。また、QRコードを用いた学習プリントは、児童が視覚的に学習内容を把握することにつながり、学習を意欲的に進めることができた。

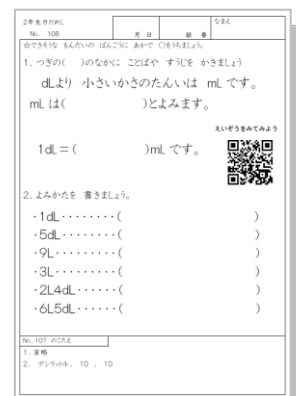
（2）研究成果の社会的な価値・波及効果として

①冊子『言葉の力と考える力を育てる発問・発言と学習プリントの手引き』等の作成

手引きなどを活用した研究会を開催した。今後も沖縄県内外の教員の研修会等で活用できるよう整備した。

②沖縄全県での利用支援

インターネットを用いた学習プリント等の資料提供が可能になった。



QRコード付学習プリント